

NPO 法人 日本ウミガメ協議会

Sea Turtle Association of Japan



2018 年 10 月 ~ 2019 年 9 月

1 日本におけるウミガメ関連情報のとりまとめ

1-1 2019 年シーズン（2018 年 10 月～2019 年 9 月）の日本の産卵情報の収集

全国の機関・個人より、ウミガメ類の上陸・産卵情報をいただいた。アカウミガメは 2,510 回の上陸、1,545 回の産卵が確認された。また、アオウミガメは 1,429 回の上陸、934 回の産卵が、タイマイは 5 回の上陸、2 回の産卵が確認された。また、種の特定できなかった上陸回数は 44 回、産卵回数は 14 回であった。

1-2 2019 年シーズンの漂着死体情報の収集

期間中、ウミガメ協議会事務局に通報を受けた漂着死体は 540 件であった。内訳はアカウミガメ 230 個体、アオウミガメ 257 個体、タイマイ 13 個体、ヒメウミガメ 3 個体、オサガメ 4 個体、クロウミガメ 1 個体、種不明 32 個体であった。

1-3 2018 年シーズンの標識調査

2018 年 10 月～2019 年 9 月の間に、12 の個人・団体・機関に 2,420 個の標識を配布した。

1-4 第 29 回日本ウミガメ会議（与論島大会）の開催

2018 年 11 月 9 日から 11 日にかけて標記会議を鹿児島県与論島で開催した。参加者は 3 日間でのべ 500 人を越え盛会であった。大会に先立ち、9 日には茶花小学校でのウミガメ出前授業、百合ヶ浜の見学ツアー、海岸での前夜祭を実施した。10 日午前には「地域観光と漁業との関係」と題したミニシンポジウムを開催し、5 題の講演の後、パネルディスカッションを行った。午後には、全国の産卵情報、死亡漂着、混獲状況の報告・議論を行った。このほかに、14 件の口頭発表、16 件のポスター発表があった。



1-5 第 30 回日本ウミガメ会議（みなべ大会）の準備

2018 年 7 月よりみなべ町役場や地元のウミガメ関係者との協議・調整を重ねたうえで、2019 年 8 月にみなべ町役場を事務局とした「第 30 回日本ウミガメ会議みなべ大会実行委員会」を設置し、定期的に行う実行委員会を開催しながら、会議の内容について協議した。

1-6 平成 30・31(令和 1)年度 徳島県 自然環境協力員育成（委託）

本事業は、徳島県内のアカウミガメ上陸・産卵調査等に関わる人材育成事業で、平成 16 年以降継続受託している。県内で募集した協力調査員（約 15 名）を対象に産卵シーズンに先立ち調査手法や関連情報に関する講習会を実施したうえで、個別の砂浜の調査結果に関して逐次報告を受け、それをとりまとめ、産卵シーズン後にフィードバックする報告会を実施している。本事業年度には、2018 年 12 月 2 日に報告会を美波町道の駅「日和佐」、2018 年 6 月 1 日に講習会を徳島市のエコみらいとくしまで実施した。

1-7 環境省モニタリングサイト 1000 ウミガメ調査（委託）

本事業は、国内の様々な生態系に忍び寄り変化をいち早く察知するべく、環境省が多くの調査主体の協力により実施している包括的生態系モニタリング事業で、当会はこのうちウミガメ類の上陸産卵モニタリングと関連情報の調査とりまとめ等を 2004 年から担当している。2016 年度の事業で見直した公募制を柱とする新体制を、1 年間の休みを経て、2018 年度から再開した。本年度は、38 の調査主体に対して、ウミガメの上陸・産卵回数などに関するヒアリングを実施し、とりまとめを行った。

2 国際的な活動

2-1 国際ウミガメ学会の運営参画

2019年2月3日から8日まで、米国サウスカロライナ州チャールストン市にて開催された第39回国際ウミガメシンポジウムに松沢が参加し、総会において前回神戸市内で開催した第38回大会の会計報告を行った。第41回シンポジウムを担当する次期会長に豪州の Kellie Pendoley 博士が選出された。

2019年8月13日から16日まで米国ウエストバージニア州の魚類野生生物局の研修所で開催された国際ウミガメ学会の定期理事会に松沢が出席した。主な議題は、39回大会の会計報告、40回大会（コロンビア・カルタヘナ）の詳細開催計画、第41回大会（豪州パース）の開催計画、学会の倫理規定、各委員の職務分掌の整理、旅費支援のしくみ、選挙制度、ホームページ改変など。



2-2 在日米軍基地における産卵調査およびアセスメント（委託）

在日米軍からの委託事業として、沖縄県読谷村の施設内でウミガメの保護事業を実施した。本事業は2008年からの継続である。2019年は4月から8月まで週5日間の頻度で砂浜を踏査し、卵の探索と移植、脱出とふ化率ならびに砂中温度などの周辺環境の調査を実施した。

2-3 日中ウミガメ保全協力

2018年11月に中国浙江省にて、室戸や屋久島から標識放流されたアカウミガメを含む128個体のウミガメの不法所持が摘発された際に連絡をうけたことを端緒に、中国のウミガメ関係者との連携を推進した。2019年5月23日から中国山東省蓬萊市で開催された「中国ウミガメ保護連盟」の第2回年次総会に松沢が招聘され、中国のウミガメ関係者と情報交換を行うとともに、「北太平洋のアカウミガメを保護するためになぜ日中共同で取り組まねばならぬのか」と題して講演を行った。漁業者との連携に関するラウンドテーブルにおいて、日本での取り組みと事例を紹介した。水族館におけるウミガメ保護の実例、漁業者との連携、混獲防止の取り組みなど、日本の先進事例の見分を望む中国ウミガメ関係者のために、国内関係各所の協力を得て視察研修を企画するとともに、関連文献の紹介なども行った。



3 個別プロジェクト

3-1 みなべ町千里浜のウミガメ保護調査（補助）

2019年6月15日から8月31日まで、みなべ町教育委員会の支援を受けて千里観音境内に開設する調査基地に常駐し、みなべウミガメ研究班および青年クラブみなべと協働で、千里浜における夜間パトロール調査を実施し、産卵メスの個体識別および産卵巣へ食害対策用の竹網・金籠の設置を行い、随時、孵化率調査を実施した。また、この期間を通じて、周辺の砂浜（岩代浜、小目津浜、南部浜）での痕跡調査を昼間に実施した。なお、食害対策および孵化調査については、株式会社ライオン大阪工場のボランティアの皆様の協力を得た。調査期間中には、帝京科学大学、岡山理科大学、大阪 ECO 海洋動物専門学校の臨海実習を受け入れ、みなべ町教育委員会の観察許可を得た 1000 名以上の観察者の誘導・観察指導を行った。



3-2 紀宝町道の駅ウミガメ公園・ウミガメふれあいパークの生物飼育管理等（委託）

2007 年より、紀宝町道の駅ウミガメ公園における「ウミガメふれあいパーク」の管理・生物展示、普及啓発活動、営業活動支援を実施している。本事業年度は、水質管理とサメ類の飼育を試みるとともに、近隣の定置網で混獲されるウミガメの収容・リハビリ・放流プログラムを展開した。なお、本委託契約は 2019 年 6 月を以て終了した。

3-3 アースウォッチ・ジャパン種子島のアカウミガメ調査（助成）

本プロジェクトは、アカウミガメの産卵地として屋久島に次ぐ規模の産卵を誇る種子島において、はじめて組織的な夜間砂浜踏査に基づく産卵メスの個体識別調査と子ガメの調査を実施するものである。主な目的は、屋久島や宮崎、みなべなど主要産卵地における回帰率の低さが種子島への産卵地の変更では説明できないことを確認し、間接的に、産卵後のメスの死亡率の高さを示すことにある。実施にあたり、地元タートルクルーと連携し、三菱重工グループの支援およびアースウォッチのボランティア 48 名の協力を受けた。本事業年度は、産卵期に 2 泊 3 日の調査を 4 回実施した。



3-4 アースウォッチ・ジャパン紀州みなべのアカウミガメ調査（助成）

本プロジェクトは、アカウミガメの産卵地として本州最大を誇る和歌山県みなべ町において、千里浜に加えて、周辺の砂浜でも組織的な夜間砂浜踏査に基づく産卵メスの個体識別調査を実施するもので、これにより同一個体が町内の複数の砂浜を一体的に利用していることを示し、シーズン内の 1 個体あたりの産卵回数など基礎的な産卵生態を明らかにすることを目的とする。実施にあたり、地元みなべウミガメ研究班と連携し、日本郵船グループの支援およびアースウォッチのボランティア 25 名の参加協力を受け、産卵期に 2 泊 3 日の調査を 2 回実施した。また、本事業年度では、GPS アルゴスを 2 頭の産卵個体に装着し、産卵期およびその後の移動経路の調査を行った。



3-5 鹿児島県野間池におけるウミガメ類混獲調査

鹿児島県南さつま市野間池に設置されているしろせ定置網の所有者宮内叶氏（当会前理事）の協力の下、操業時に混獲が確認されたウミガメについて、種同定、甲長甲幅等の体サイズ計測を行なった後、左右前肢に標識を装着して放流した。2018 年 10 月から 2019 年 9 月までの 1 年間に、79 個体（アカウミガメ 11 個体、アオウミガメ 63 個体、タイマイ 1 個体、種不明 4 個体）が調査対象となった。

4 情報発信・教育啓発

(※付属施設の活動については、「5」に記載)

4-1 講演活動

2018.12.08. 於：アースウォッチ・ジャパン総会
2019.01.19. 於：三菱重工グループ 理科教室@神戸市立須磨海浜水族園
2019.01.26. 於：紀伊半島ウミガメシンポジウム@みなべ町第二庁舎
2019.02.02. 於：和歌山県学校歯科保健研究大会講演@みなべ町
2019.02.22. 於：枚方市「2回目の学校」出前授業
2019.04.23. 於：美波町ウミガメ保護連絡協議会
2019.05.19. 於：みなべウミガメ研究班・三重大学かめっぷり 合同勉強会
2019.05.25. 於：なごや環境大学
2019.08.07. 於：枚方市春日小学校 枚方市留守家庭児童室市民参画事業
2019.08.09. 於：枚方市樟葉西小学校 枚方市留守家庭児童室市民参画事業
2019.08.11. 於：ソニー水族館オープンカレッジ対談@銀座
2019.09.24. 於：アースウォッチ・ジャパン 日本郵船報告会
2019.09.25. 於：アースウォッチ・ジャパン 三菱重工報告会

4-2 学会・論文等発表

松沢慶将 2018. 「ウミガメ保護の胡散臭さ」随筆みなべ 65:71--76.

Matsuzawa, Y. 2019. President's Reports, 38th annual Symposium on Sea Turtle Biology & Conservation, Kobe, Japan, 18-23 February 2018, Marine Turtle Newsletter. 156:45-48.

4-3 普及啓発

徳島県アカウミガメ上陸産卵調査報告会を開催 2018/11/23 徳島
徳島県アカウミガメ上陸産卵調査講習会を開催 2019/06/01 徳島
山梨県河口湖コンサート「イルカ with Friends Vol.15」に出展 2019/07/20 山梨
大阪府枚方市「ひらかた祭り」にブース出展 2018/08/24-25 枚方

4-4 その他

(1) 広報・メディア協力等 (抜粋)

ハーバーコリンズ・ジャパン『ミッション・ウミガメ・レスキュー (ナショナル ジオグラフィック キッズ)』監修
紀伊半島ウミガメ情報交換会 30周年記念誌～30年のあゆみ～ 編集協力
日本テレビ「天才志村どうぶつ園」千葉県一宮海岸砂中温度分析・取材協力
毎日新聞 2019年2月10日朝刊 余録「浦島太郎が助けた亀のモデルは・・・」取材協力

(2) 情報の発信・印刷物の発行等

●機関誌「マリンタートラー」の発行

日本ウミガメ協議会の活動を広く周知するために、機関誌「マリンタートラー」第26号(12/31)と27号(6/1)を発行した。

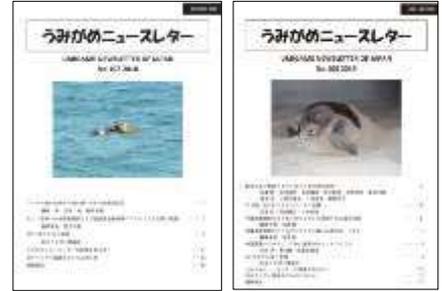


●ウミガメ速報の配信 計 8 回

ウミガメに関わる個人・団体間での連携と情報の即応性を高めるために、電子メール・ファックスなどを利用し、ウミガメの産卵情報を中心とした情報を不定期に配信した。

●「うみがめニュースレター」の発行支援

うみがめニュースレター編集委員会（委員長：石原孝、編集委員：平間茂知・河津勲・亀田和成・岡本慶、顧問：亀崎直樹）が発行している情報誌「うみがめニュースレター」の発行経費（印刷・発送）を全額支援した。
事業年度中に No.107 と No.108 の 2 号を発行した。



(3) インターシップの受け入れ

谷玲花（立命館大学）、石合望（京都大学大学院） ほか

(4) 専門学校講義担当

大阪 ECO 海洋動物専門学校にて、週 3 コマ（海洋生態・水族館就職対策）を担当

(5) 種の保存法違反に関する捜査への協力

某保護団体がインターネットオークションでのウミガメ剥製等の取引について一斉告発したことを受けて捜査を余儀なくされた各都道府県から、捜査協力要請を受け、写真による鑑定等を行うとともに、必要に応じて文章での解説等も行った。

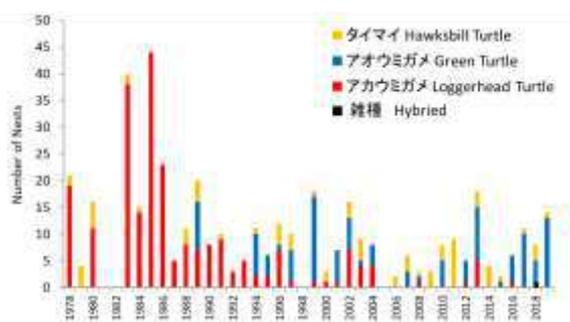
5 付属施設の活動

5-1 黒島研究所の活動

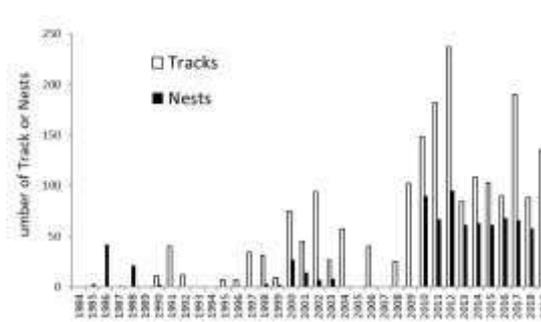
1. 調査・研究活動

●ウミガメ類の上陸産卵調査（主に黒島西の浜、西表島南岸のウブ浜とサザレ浜）

黒島西の浜におけるウミガメ類の産卵調査は、荒天時を除き、毎日実施された。アオウミガメの上陸 16 回そのうち産卵 12 回、タイマイ上陸 1 回そのうち産卵 1 回が確認された。その他に、西表島の南岸のウブ浜とサザレ浜で 6 回の調査を実施した。その結果、アオウミガメ上陸 135 回そのうち産卵 67 回であった。なお、イノシシによる捕食は約 8 割であった。



西の浜におけるウミガメ類の産卵数の推移



西表南岸におけるアオウミガメの上陸・産卵数

●ウミガメ類の標識放流調査

今年度はアオウミガメ 109 個体、タイマイ 2 個体を標識放流した。手法別では、黒島周辺での刺し網による捕獲調査は 10 回実施し、アオウミガメ 96 個体、タイマイ 1 個体を捕獲した。ヘッドスタートによって、アオウミガメ 4 個体を放流した。そのほかに漁業者の網に混獲されたアオウミガメ 9 個体、タイマイ 1 個体を放流した。

●助成・委託事業

助成事業：共同研究を含め、4 つの申請書を出したが獲得できず。

委託事業：在日米陸軍トリイビーチウミガメモニタリング（元請け）来年度も継続予定

在日米陸軍津堅島ウミガメモニタリング（沖縄環境サイエンス社より下請け）来年度も継続予定

●論文・学会発表など

Kameda K., Suzuki K., Kuroyanagi K., Takase M., Matsuda K, Noda J (2019) Comparison of green turtle *Chelonia mydas* sex ratios at two time-points over 20 years at a foraging ground in Yaeyama Islands, Ryukyu Archipelago, Japan. *Endangered Species Research* 38: 127-134.

亀田和成・若月元樹 (2018) 八重山海域におけるアオウミガメの増加. 第 29 回日本ウミガメ」会議 in 与論島. ポスター発表

田中優衣・亀田和成・若月元樹 (2018) 高知県室戸と八重山諸島黒島で確認されたサメ・エイ類. 板鯨類シンポジウム 2018 in 長崎大学. 口頭発表

山本菖・亀田和成・鈴木直樹(2018) 標識再捕実験からみた八重山諸島黒島沿岸域におけるレモンサメの成長速度と行動範囲. 板鯨類シンポジウム 2018 in 長崎大学. ポスター発表

●本年度に実施、もしくは、次年度に予定しているプロジェクト

有害物質が母ガメから子ガメへ引き継がれる過程（メキシコの研究者、論文のデータ収集、終了）

アオウミガメのフィブロパピロマの研究（岡山理科大学の卒論生、データ収集、終了）

アオウミガメの腸内細菌の研究（東京海洋大学の卒論生、データ収集、終了）

アオウミガメの摂餌生態に関する研究（三重大学との共同研究、論文執筆中）

レモンザメの標識放流調査（東京海洋大との共同研究で修士を受入、継続中）

八重山諸島におけるアオウミガメふ化幼体の性比（三重大と共同研究で卒論を受入、次年度は高知大へ進学し継続予定）

II. 利用研究者・学生

2018 年

12 月 研究者：長崎大 1 名

学生：海洋大 1 名

2019 年

1 月 学生：海洋大 1 名

2-4 月 研究者：長崎大 1 名

学生：琉球大 1 名、海洋大 7 名、三重大 4 名

5 月 学生：三重大 1 名、海洋大 1 名

6 月 学生：三重大 1 名、東大 1 名、高知大 2 名、
岡山理科大 1 名

7-9 月 学生：海洋大 9 名、琉球大 2 名、三重大 3 名、
日大 2 名、福山大 2 名、名古屋大 1 名、
関西学院大 1 名、大阪府立大 1 名、
日本ペット&アニマル専門学校 1 名

利用者合計 34 名（研究者 1 名・学生 33 名）



ドラゴンフルーツと研修生



刺網 半日の成果

III. 団体の受け入れ

2018 年

10 月 鳩間小中学校 遠足

12 月 兵庫県立兵庫高校 修旅

2019 年

2 月 龍谷大学付属平安高校 修旅

3 月 近畿大学付属高校 修旅

3 月 箕面自由が丘中学校 修旅

5 月 新川小学校遠足

この他、クラブツーリズム を 55 回受付

※次年度は すでに 10 校が修旅で来所予定



海洋大とサメ調査を継続

IV. 新聞掲載・テレビ出演等

なし



修学旅行が増加中

V. その他

入館者数 11,283 人 (2018 年 10 月～2019 年 9 月)

- ウミガメ勉強会 冬休み、春休み、夏休み、GW の連休時に毎日
- マリンタートラー発行

2018 年

- 10 月 GIS フォーラム 中西
- 11 月 ウミガメ会議 in 与論 若月・亀田
- 12 月 板鰐類シンポジウム in 長崎大 亀田

2018 年

- 2 月 沖縄カメ宴会 若月・中西
- 5 月 動物扱い講習 亀田
- 6 月 黒島ビジターセンター運営協議会 亀田
- 9 月 美ら島財団助成事業成果発表会 亀田

(若月・亀田・中西)

5-2 むろと廃校水族館および室戸基地の活動

I. 調査・研究活動

●ウミガメ類の通常調査

(高岡・三津・椎名混獲個体の計測標識放流、標識個体の計測、上陸痕跡確認)

- ・大敷網 アカウミガメ 115 頭、アオウミガメ 72 頭、オサガメ 2 頭
- ・漂着 アカウミガメ 3 頭、アオウミガメ 2 頭
- ・上陸産卵 アカウミガメ 4 頭

II. 利用研究者・学生

2018 年

- 10 月 OAO1 名、高知大学院 1 名、若狭高校 3 名
- 11 月 TCA1 名、大阪大 1 名、高知大 1 名
- 12 月 琉球大 1 名、海洋大 1 名、OAO1 名、
長浜高校 2 名

2019 年

- 1 月 高知大学院 2 名
- 2 月 OAO 3 名、海洋大 1 名、高知大 1 名
- 3-4 月 紀宝町地域おこし隊 1 名、琉球大 2 名、
海洋大 6 名、高知大 6 名、ECO3 名、
室戸中 1 名、金沢大 1 名
- 5-6 月 OAO1 名、金沢大 1 名、KAP1 名、海洋大 1 名、高知大 1 名
- 8 月 海洋大 2 名、OAO3 名、京大 1 名、福山大 1 名、金沢大 1 名、高知大 1 名

利用者合計 54 名



実習生によるエイの給食時間



団体向けの授業

Ⅲ. 団体の受け入れ

●学校（遠足・教員研修等）

2018 年

- 10 月 安芸市立土居小、北川村立北川小、
吉良川小、室戸中 3 年生、
高知開成専門学校
- 11 月 奈半利町立奈半利小 2 年生学 P、
光の村養護学校、吉良川小、
高知県立山田養護学校、高知県高岡高校、
奈半利町立奈半利小 1 年生学 P、羽根中
- 12 月 馬路村立馬路中学校

2019 年

- 1- 3 月 室戸小 1 年生、南国市立大篠小、東洋町立野根小
- 5 - 6 月 高知大学附属小、津野町立葉山中、愛媛県松山市立北久米小 5 年生、嶺北中
- 7 月 室戸小 6 年生学 P、愛媛県大洲市立肱東中、愛媛県大洲市立肱川中、
高知大学地域協働学部、馬路村立馬路中学 P、羽根中学校、
愛媛県大洲市立平野中、田野町立田野小学校 5 年生学 P、
田野町立田野小学校 3 年生学 P
- 8 - 9 月 徳島県海陽町立海陽中学校、奈良県立添上高、愛媛県伊予市立郡中小

●議員視察の受入

2018 年

- 10 月 熊本県天草市議会、熊本県玉名市議会、
三重県津市議会、徳島県牟岐町議会、
徳島県阿南市議会、栃木県矢板市議会、
北海道室蘭市議会、宮崎県串間市議会
- 11 月 福井県敦賀市議会
- 1 月 滋賀県湖南市議会
- 2 月 茨城県下妻市議会
- 5 月 宮城県石巻市議会、青森県むつ市議会
- 6 月 高知県議会
- 7 月 鹿児島県日置市議会
- 8 月 高知県議会
- 9 月 四万十市議会



市議会の視察

●この他にも農協観光、クラブツーリズム、読売旅行、阪急交通社など多数の団体が来館

Ⅳ. 新聞掲載・テレビ出演等

NHK、さんさんテレビなど多数出演
高知新聞、読売新聞など多数掲載

Ⅴ. その他

入館者数 184,438 人

(2018 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日)

●ウミガメ調査体験

主に小・中学校の対象として実施

●イベント実施

2018 年

- 11 月 生物ライター平坂寛本当にあった世にも
奇妙な生物の話（主催：OUTER KOCHI）
- 12 月 サンタさんお迎え企画（共催：椎名大数組合）
イルミネーション実施
年末オールナイト開館



来館者 25 万人達成



沖からサンタがやってきた

- 1月 初日の出鑑賞、書き初め大会
- 4月 開館一周年記念 特別鉛筆配付
- 7月 七夕短冊企画
- 8月 早朝ラジオ体操

●Twitter 毎日更新

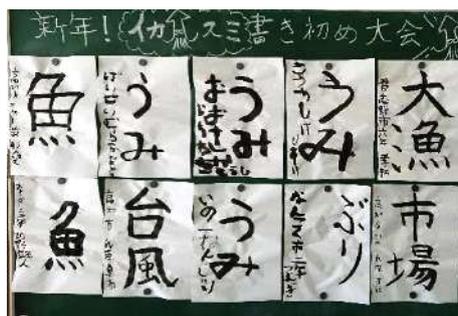
●講演活動

2018 年

- 10月 3日 室戸市老人クラブ連合会
(国立青少年自然の家)
- 10月 14日 「黒潮冒険団」海と日本プロジェクト
in 高知 日本財団
- 11月 15日 「ウミガメのお話」(元小学校)
- 12月 11日 第2回東部文化財保護連絡協議会

2019 年

- 1月 30日 「ウミガメの生態について」(四万十町立興津小学校)
- 2月 11日 「生物のかたちから家づくりのヒントがいっぱい！」
(高知県住宅総合展示場ライム)
- 3月 9日 「小学校を水族館にしたお話」うたみパラダイスサポーター海星
(香川短期大学)
- 3月 9日 「今水族館が四国を盛り上げる！その魅力と将来」四国水族館開発
(香川短期大学)
- 4月 12日 「むろと廃校水族館運営を通しての地域貢献」安芸郡市小中校長会
(ホテルタマイ)
- 5月 7日 「むろと廃校水族館」こうち生協安芸支所支所別総代会
(田野町ふれあいセンター)
- 7月 1日 「むろと廃校水族館の運営を通しての地域貢献について」室戸市教頭会
(室戸市役所)
- 7月 16日 「それゆけ！廃校水族館！！」高知西倫理法人会(土佐御苑)
- 7月 16日 「ウミガメの生態」元小学校
- 9月 21日 「ウミガメ利用から保護へ」生き物文化誌学会(神戸市須磨区民センター)



イカ墨で書き初め大会

(若月・田中・鉦口・岩佐・田平・米田・岩崎)